

領域	めざしている姿	評価	上段は前進面、下段は今後の課題
A 生徒像	1. 生徒たちが主人公となっている	3.4	委員会活動や行事など各分野で自主性が発揮されつつある。 HR活動や授業などで生徒の主体性を育む取り組みは十分とは言えない。
	2. 生徒は教師の深い信頼を浴びている。	2.8	教師たちは生徒の可能性を信じて、信頼関係づくりに努力している。 互いに信頼が構築されるよう、さらなる努力が必要である。
	3. 学びや自主的な諸活動で生徒たちは居場所をもち、生き生きと自主的に活動している。	3.1	探究コース活動、部活動や委員会活動など活躍できる居場所は拡大している。 目標設定ができない生徒に対する寄り添いが必要である。
	4. 生徒が自分自身を信頼し、よく対話し、表現し、探求している。	2.7	アクティブラーニング型授業の中で発揮されつつある。 自分に自信を持ってない生徒に対する働きかけをいかに増やすかが課題である。
	領域評価(平均)		3.0
B 学び	5. “学び”を最優先にしている。	2.8	家庭学習ノートを工夫するなど自ら学習に取り組んでいる生徒も増えてきた。 スマホ依存など課題は多い。
	6. 学校が「学び続ける組織・コミュニティ」として位置づけられている	2.9	生徒だけでなく職員研修など教職員も学ぶ機会が多く設定されている。 個々の力を組織的に転化することが課題である。
	7. 創造的なカリキュラムを生徒も関わりながらつくり出している。	2.7	探究学習では生徒が主役となって学びをつくり出している。 全体に未だ教師主導である。探究学習と看護教育の連携が必要である。
	8. 教科横断的なプロジェクト学習に生き生きと取り組んでいる。	2.6	探究では一つのテーマから教科横断的に学ぶことができている。 まだ断片的で教科主任会などで活発な意見交換とシラバスづくりが課題である。
	9. 協同的な学びの中で学ぶ喜びを取り戻している。	2.9	協同学習に生徒は生き生きと取り組んでいる。 内向的な生徒の援助や「つながる力」の育成が必要である。
	10. 生徒も教師も、“学び”を絶えずモニタリングしている。	2.6	公開授業の定例化、生徒の振り返りや授業アンケートなどを実施し、教員は意識的に取り組んでいる。 教員の授業自己評価、分析を行う時間が必要である。生徒は自分の学習をコントロールする力の育成が必要である。
	11. ロビーや廊下や階段は生徒たちのさまざまな作品を展示するギャラリーのよう。	2.1	図書委員会の活動は活発で、朝読との連結を意識して本の紹介などを行っている。 日常的には取り組めていない。HR活動と学習活動との連結が課題である。
	12. 図書室はメディア・センターであり、自主学習室でもある。	3.3	図書の質、量も充実し、環境も良い。閲覧学習室は朝早く登校した生徒などの学習の場として活用されている。 利用生徒の固定化傾向が見受けられる。幅広く利用されるよう啓蒙する活動が課題である。
領域評価(平均)		2.7	

C 教師像	13.一人ひとりの生徒の違いを認め、それに対応する教え方を実施している。	3.3	個人を大切に生徒理解をしようと、多くの教員が努めている。生徒情報の共有も意識的に取り組み始めている。 生徒がつくるポートフォリオなど学習履歴づくりをすすめ、日常的に生徒把握することが課題である。
	14.さまざまなタイプの先生がお互いに尊重されながら個性を発揮している。	3.2	教科、学年、校務などそれぞれの分野で個性が発揮されている。 個性を重視した上で相互が理解し合えるチームワークづくりが必要である。
	15.教育はチームプレイだ、ということがよく自覚されている。	3.0	教員一人一人がチームワークの大切さを意識している。特に学年会の多くは互いに援助する姿勢ができています。 相互理解が不十分で一体感に欠ける場合がある。学校全体での統一した動きに緩慢な部分がある。
	領域評価(平均)	3.2	
D 父母地域提携	16.すべての学びを学校の中だけで完結できるとは考えず、まちとつながる学校づくりを進めている。	3.4	生徒たちが積極的に校外に出て市のイベントやボランティア活動に参加している。それを支える保護者の力も大きい。 オープン講座など学習分野でのつながりに今後の発展が望まれる。
	17.父母と教師が教育づくりのパートナーとなっている。	3.3	PTAの役員幹事会を中心に教育活動全般で応援団になってくれている。教員は学級通信の発行などで提携を進めている。定時制父母提携も地区懇談会など進みつつある。 学級懇談会などへの幅広い保護者の参加が課題である。
	18.親や生徒の意見や提案が受け入れられ、学校に関わる人達が一緒に検討しあう“広場”がある。	3.2	学校づくりフォーラムや黎明フォーラムは生徒、父母、教師で活発に討論される場となっている。 フォーラムへの参加増(教師、地域の方々)が課題である。
	19.外に開かれ、外の風を取り込むことが体質化している。	3.0	教員は開かれた学校づくりを目指す意識は高い。県内外への研修にも積極的に参加している。職員会議では研修報告も位置づけられている。 行事以外でのさまざまな地域提携の取り組みが課題である。
	20.親や地域のボランティアなど、たくさんの大人が学びをサポートする仕組みができています。	3.2	PTAの役員をはじめ、父母の教育力が発揮されている。生徒は地域のボランティアに参加することによって成長している。 幅広い地域の教育力を活かすことができていない。
	領域評価(平均)	3.2	
総合評価		3.0	